

薬局におけるレニンアンジオテンシン系阻害薬、利尿剤、NSAIDs の 3 剤併用 (Triple Whammy) に関する NSAIDs の使用実態調査

福井章人

総合メディカル (株) そうごう薬局 西冠店

【目的】高齢者や CKD 患者へのレニンアンジオテンシン系阻害薬 (以下 RASI) ・利尿薬・NSAIDs の 3 剤併用は急性腎障害発症リスクを高めることが報告されている。今回保険薬局において 3 剤併用を回避する具体策を考える目的で、複数診療や OTC を含めた 3 剤併用の実態について調査したので報告する。

【方法】当薬局グループ内の 12 店舗に来局した患者で、2020 年 10 月 1 日から 2021 年 5 月 31 日までに RASI ・利尿剤の 2 剤を 30 日以上併用している患者の薬歴を調査した。調査項目は年齢、性別、処方薬剤、OTC、他科他院受診、疑義照会の状況、血清クレアチニン値とした。

【結果】 来局者 51,355 名のうち、RASI ・利尿剤の 2 剤併用 411 名、そのうち NSAIDs の併用患者は 123 名 (30 日未満 75 名、30 日以上 48 名) であった。NSAIDs と RASI ・利尿が異なる医師により処方されたのは 79 名 (うち整形外科 24 名)、同じ処方医は 35 名 (うち内科 14 名)、OTC 購入での併用は 11 名であった。2 剤併用患者 411 名のうち腎機能が把握できた患者は 131 名 (32%) で、さらに G3b 以降の患者は 51 名 (うち 3 剤併用は 8 名) であった。3 剤併用 123 名のうち、疑義照会・トレーシングレポートの提出は 3 名に行い、そのうち 1 名が変更、2 名が中止となった。

【考察】NSAIDs は複数診療や OTC 使用により短期間でも 3 剤併用になる場合が多く、2 剤併用患者に NSAIDs が処方されないか継続的に注意する必要がある。今回の結果を踏まえ、今後処方医と 3 剤併用のリスクを共有し、その対応について事前に話し合っておくことが重要だと考察した。